

本部長退任挨拶

晴れやかな会の 運営と活動の 活性化に向けて

北海道本部長の退任にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

振り返りますと、私は初代(当時支部長)の石山様から数えて丁度第 10 代目の本部長を仰せつかりましたが、この度、区切りも良く次代第 11 代は金様に引き継ぐことができました。

本部長在任中は、もっとたくさんのことにチャレンジし、会員の皆様との情報を密にすることにより、北海道本部の活動活性化を図る所存でしたが、新型コロナウイルスの蔓延により、行動規制が強くなって、思うように活動できなかったことが心残りとなっております。

そんな中で、ともするとなおざりであった技術士会の運営に関して、関連する規則を設けたり、新たな事業を開始するなどして、多少なりとも明確な運営方針が整理できたのではないかと考えています。

一例を申し上げますと、まず CPD 実績登録管理事業が開始されたことです。

これは技術士資格の更新ではなく、継続研鑽によって技術士の資質向上に資するものであり、講演会などでは個人 WEB 配信も可能となりました。

組織改革委員会では全国組織の再編見直しをはかり、風通しの良い組織づくりを目指しましたが、その中で、技術士行動規範や倫理規則を策定して、本会の経営理念をまとめることができました。

さらに、会員の増加を目指して新規合格者の入会金免除や年会費の減免制度を導入して、入会しやすい環境を整え、IPD システムの実装化によって、広く若手技術者教育の重要性を進めたところです。

全国的な動きとしては、地域組織と部会のいわゆ

大熊 正信(おおくま まさのぶ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人 日本技術士会

北海道本部



る縦の糸と横の糸の連携強化が叫ばれていますが、北海道本部にはご承知のように部会がありません。北海道では地域特性や地方会員数の確保などの面で、部会設置までには至らず、北海道本部主体の研究委員会を設置するなどして、部門を超えた連携強化を目的として活動してきました。

今後も部会活動の一環としての講演会等の案内は、事務局が一元的に管理していくことになるかと思いますが、広く部門に捉われない会員の方々の参加を得て、更なる会の活性化に努めていただければと願っております。

今後は北海道においても多業種が連携した事業が活発に行われるとの報道もあるように、農業、観光、インフラ整備をはじめ、エネルギー、デジタル産業などに見られる北海道バレー構想など、多くの技術分野が複合的に機能する必要があります。

技術士会にとっても 21 部門が強力に連携していくことがより一層重要になってきているのではないのでしょうか。

また、来年は 2013 年以来 11 年ぶりに北海道で全国大会が開催されることとなり、会員の皆様には大変なご苦勞をおかけすることになりますが、何とか成功裏に開催できることを願っています。

今般、本部長が一区切りついたことで、今後は 1 会員として、北海道本部並びに統括本部の活動に参加していきたいと思っておりますので、皆様のご指導を賜りますようお願いして、本部長退任のご挨拶とさせていただきます。

また、運営に当たって多くの皆様にご支援をいただいたこと、改めてお礼申し上げます。